



第4話 街(まち)づくりは あまり賛成ではないな

おじさんと一緒に住んでいる創おじいさんが、こんなことを言い出しました。

伸ちゃんの花とみどりの道づくりは、どうやら実現に向けて動き出してよかったな。

ええ。地域のみなさんが快く協力してくれましたからね。

このような地域に根ざしたまちづくりは良いが、もう少し大きな街(まち)づくりとなると、わたしはあまり賛成しないな。

どうしてですか。

わたしの小さい頃は、道路が子供たちの遊び場だったし、あちこちに空き地があって、それも自分たちで自由に使えたもんだよ。

そうでしょうね。

それが、今では危なくて子供も年寄りも、気軽に外にも出られないよ。道路を造れば、車道ばかり広くて歩行者や周りへの影響のことなど考えてないし、騒音もひどくなる。空き地には大きな建物ができて遊び場はなくなるし、近隣には日影や電波障害などの問題を起こしているだろう。

ええ。

それに、林や畑などをつぶして大規模な住宅団地を造ったりして、まちがどんどん変わっていく。昔の風景はなくなるし、仲の良かった近所づきあいはぎすぎすするし、なにか良いことでもあったかね。

なかなかきびしい意見ですね。たしかに以前は、おじいさんの言うような事も多かったですね。

「以前は」とは？

今から30年ほど前の、昭和40年代までの街づくりは、道路や住宅や公園などの施設が不足していたものだから、どうしても、その役割というか、働きを優先して造られたものが多かったんですね。

たしかにそうだな。難しくいえば、社会資本が不足している時代だった。また、周辺に住んでいる住民や、環境などに対する配慮が不十分でしたね。道路づくりは、自動車をいかにスムーズに、また大量に走らせるかが目的でしたし、住宅団地もいかにたくさんの方数を確保するかが重要だったので、おじいさんのいうように、様々な問題も出てきたんですよ。

それじゃ、今の街づくりはどうなっているんだい？



次回は「今のまちづくりはどうなんだ？」です。お楽しみに。

目白通りに出て環七の豊玉陸橋近くの住宅街の一角に、教会を思わせる青い屋根の建物が見えてきます。ここが唐澤博物館(旧東京教育大学(現筑波大)名誉教授で教育学・教育史の研究者の唐澤富太郎博士の個人博物館です。

さっそくアーチ型の門扉から館内へ案内して下さるのは博士の娘さんの

江戸から昭和 目で見える教育史 コレクションの世界



高架になって駅も新しく生まれ変わった桜台。文字通り、昔は千川と石神井川の桜に囲まれたまちであつたとい

います。桜の名所にちなんで、昭和11年にできた駅が「桜台」と名づけられ、昭和37年になって町名も練馬南町から桜台になりました。それを記念して、地元の有志の方々による「桜の碑」(が歩道脇に建てられていました。



かつての千川も暗渠となつていますが、その後植えられた桜並木は、今でも私たちの目を楽しませてくれます。「桜の碑」を後にして、唐澤博物館を訪れることにしました。

変わり行く 千川と桜の街



◀千川の桜を今に伝える桜の碑

唐澤りり子さん。館内はまるで巨大な古美術店のよう。平成5年に開館した建物は、明治時代の学校をイメージして建てられたとか。特に1階の重厚でモダンな手すりの階段は、明治20年に建築された鳥取県の小学校にあつたものを移設し、館の設計もこの階段の高さに合わせることに始まつたとか。

太い柱や梁、床にいたるまですべて博士ご自身で集めたもので造られているそうです。

3階建ての館内には、日本の貴重な建物や文化の喪失を憂えた博士が、長い年月をかけて日本各地から収集した膨大な資料の一部7千点が所狭しと並んでいます。

1階は、学校教育120年をテーマに展示されており、日本初の国定教科書や敗戦後の墨塗り教科書、九九や動植物図などの掛図、「学問ノススメ」の初版本など、実物が語る生の迫力を感じました。2階には、江戸期の寺子屋が実物で再現され、文具や玩具のほか勝海舟が使つたという筆までもあります。3階には暮らしをテーマに民具や食器などが展示されています。



他にも、大八車の車輪をはじめ込んだ飾り窓や、玉川上水の木管など美に多岐にわたっています。「教育は学校だけの世界で捉えるべきでない」という信念から、遊びや生活文化にまで広げて収集された品々に、博士の博物館づくりの原点を見ることができました。自費でここまで集めた唐澤博士のパワーに敬服します。

説明を受けて見学していたら1時間はあつという間。個人の博物館でこれだけ多岐にわたる貴重な資料が見られるところは全国でもあまりないのでは一度ご覧になることをお勧めします。

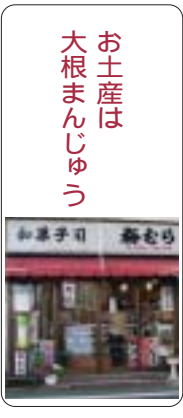


◀風格ある古い階段は今も健在

今回は主に南口を歩いてみましたが、北口の石神井川沿いには広徳寺や高稲荷神社など古刹や名所が多く散策コースとしていつか紹介したいものです。今度は是非、文字通り桜の季節に来てみたいと思います。

▶栃木県真岡市にあった寺子屋

ひと休みの後、お土産を買おうと高架下を抜けて駅北側を練馬駅方面へ。昔ながらの木造平屋の家が残る通りを、目指すは、銘菓ねりま大根まんじゅうをつくらしている「和菓子司梅むら」さん。小さな店には春らしい彩りの和菓子が並んでいます。店名にある「司(じ)」とは自家製造の意味。練馬大根をかたどつた「ねりま大根まんじゅう」は形や色もかわいらしく、しつとり上品と、甘さ控えめこし餡が人氣の一品。「菓子は心をこめて作るもの」との言葉に、ご主人今野三郎さんの和菓子作りへのこだわりを感じました。実直な職人気質のご主人と明るく気さくな奥さんとの絶妙なコンビで、これからも地元の方々に愛されたいことでしょう。



お土産は
大根まんじゅう

陽だまりの
冬の公園で
ひと休み

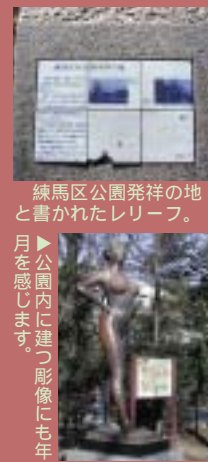
唐澤博物館から、再び駅へと向かう途中の公園でひと休み。この区立新井公園()は、昭和12年に練馬区最初の都市公園として誕生した歴史ある公園。彫像や遊水池もあり桜や楓などの樹木も多く、とても落ち着いた雰囲気。隣は豊玉第二小学校、春には満開の桜の下で遊ぶ子どもたちの姿が目につかひます。



- 1 桜の碑
- 2 唐澤博物館
- 3 中新井公園
- 4 和菓子司梅むら



和菓子司梅むら(練馬区桜台4の4の10)
西武池袋線桜台駅北口から徒歩5分
営業/9時30分~20時・火曜定休
☎03(39992)3914
地方発送も受け付けています。
毎月第2土曜はサービスデーです。



中新井公園(豊玉上2の18の1)

▶輸入して日本で組み立てた最初のピアノや蓄音機なども展示されている。

▶江戸から昭和までの懐かしい玩具コレクションが揃っている。



唐澤博物館(練馬区豊玉北3の5の5)
西武池袋線桜台駅南口から徒歩15分
開館日/要電話予約 ☎03(39991)3065
入館料/大人700円・中学生300円・小学生200円
希望者には館内説明あり